

がん化学療法レジメン登録票

新規レジメン登録の際にはプロトコールの提出が必須です
プロトコールがない場合は参考文献を提出してください

| | |
|----------|--|
| レジメン名 | AALL1231 induction ArmB |
| 診療科名 | 血液腫瘍内科 |
| 診療科責任者名 | 末永 孝正 |
| 適応がん種 | T-ALL |
| 保険適応外の使用 | <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 |
| 入院外来区分 | <input checked="" type="checkbox"/> 入院 <input type="checkbox"/> 外来 |

| がん治療ワーキンググループ使用欄 | |
|------------------|--|
| 登録番号 | ALL-66 |
| 登録日・更新日 | 2026年2月24日 |
| 削除日 | |
| 出典 | J Clin Oncol. 2022 Jul 1;40(19):2106-2118. |
| 入力者 | 若宮 奈央 |

投与順に記入(抗がん剤のみ)

| | 薬剤名:一般名 (薬剤名:商品名) 希釈液 | 規格 | 投与量算出式 | 投与経路 | 投与時間 | 施行日 |
|------|-----------------------------|-----------|-------------------------|--|------|------------------|
| No.1 | ボルテゾミブ (ボルテゾミブ注射用) | 3mg | 1.3mg/m ² | <input checked="" type="checkbox"/> IV <input type="checkbox"/> DIV <input type="checkbox"/> CV <input type="checkbox"/> 側管 <input type="checkbox"/> その他() | - | day1,4,8,11 |
| | 生理食塩液 | 20mL | | | | |
| No.2 | ビンクリスチン硫酸塩 (オンコピン注射用) | 1mg | 1.5mg/m ² ※1 | <input type="checkbox"/> IV <input checked="" type="checkbox"/> DIV <input type="checkbox"/> CV <input type="checkbox"/> 側管 <input type="checkbox"/> その他() | 10分 | day1,8,15,22 |
| | 生理食塩液 | 100mL | | | | |
| No.3 | ダウノルピシン塩酸塩 (ダウノマイシン静注用) | 20mg | 25mg/m ² | <input type="checkbox"/> IV <input checked="" type="checkbox"/> DIV <input type="checkbox"/> CV <input type="checkbox"/> 側管 <input type="checkbox"/> その他() | 10分 | day1,8,15,22 |
| | 生理食塩液 | 100mL | | | | |
| No.4 | ベグアスバルガーゼ (オンキヤスパ点滴静注用) | 3750IU | 2500IU/m ² | <input type="checkbox"/> IV <input checked="" type="checkbox"/> DIV <input type="checkbox"/> CV <input type="checkbox"/> 側管 <input type="checkbox"/> その他() | 1時間 | day4,18 |
| | 生理食塩液 | 100mL | | | | |
| No.5 | シタラビン (キロサイド注) | 40mg | 70mg/body | <input type="checkbox"/> IV <input type="checkbox"/> DIV <input type="checkbox"/> CV <input type="checkbox"/> 側管 <input checked="" type="checkbox"/> その他(髄注) | - | day1 |
| | 生理食塩液 | 20mL | ※2 | | | |
| No.6 | メトレキサート (注射用メソトレキサート) | 5mg,50mg | 15mg/body | <input type="checkbox"/> IV <input type="checkbox"/> DIV <input type="checkbox"/> CV <input type="checkbox"/> 側管 <input checked="" type="checkbox"/> その他(髄注) | - | day8(15,22),29※3 |
| | 生理食塩液 | 20mL | ※2 | | | |
| No.7 | デキサメタゾン※4 (デカドロン錠) | 0.5mg,4mg | 3mg/m ² /回 | <input type="checkbox"/> IV <input type="checkbox"/> DIV <input type="checkbox"/> CV <input type="checkbox"/> 側管 <input checked="" type="checkbox"/> その他(経口) | 1日2回 | day1-28 |
| | | | | | | |

| | |
|------------|--|
| 1コースの期間 | 35日 |
| 投与間隔の短縮規定 | <input type="checkbox"/> 短縮可能(日) ・ <input checked="" type="checkbox"/> 短縮不可能 |
| 計算後の投与量上限値 | 110% |
| 計算後の投与量下限値 | 50% |

がん化学療法レジメン登録票

新規レジメン登録の際にはプロトコールの提出が必須です
プロトコールがない場合は参考文献を提出してください

| | |
|------------------|---|
| <p>減量・中止基準</p> | <p><ピンクリステン> ・神経障害性疼痛:Grade3以上の場合、投与を中止する。症状が改善したら、50%量から再開する(最大用量1mg)。その後忍容性に応じて、全量まで漸増する。 ・高ビリルビン血症(直接ビリルビン値):<3.1mg/dLの場合、投与量調節は不要(最大用量2mg)。 3.1-5.0mg/dLの場合、50%減量して投与する(最大用量1mg)。 5.1-6.0mg/dLの場合、75%減量して投与する(最大用量0.5mg)。 >6.0mg/dLの場合、投与を中止する。毒性が改善したら、スケジュール上の次回投与から再開する。中止期間中に予定されていた投与は実施しない。 ・便秘または腸閉塞:Grade3以上の場合、投与を中止する。症状が軽減したら50%量(最大用量1mg)で再開し、忍容性に応じて漸増し全用量まで増量する。</p> <p><ベグアスバルガーゼ> ・アレルギー反応:グレード2以上のアレルギー反応(CTCAE v4.0定義)で、医学的介入を必要とする場合には、中止が推奨される。 グレード2以上の全身性または再発性局所アレルギー反応が生じた場合、クリサントスパーゼに代替すべきである。 ・アナフィラキシー:グレード3のアナフィラキシー(CTCAE v4.0定義)を発症した場合、投与を中止すること。この場合、クリサントスパーゼに切り替えること。 クリサントスパーゼへ切り替えた場合2500IU/mを週3回、計6回の投与を行う。 ・凝固障害:症状がある場合、症状が解消するまでアスバラギナーゼを中断し、次に予定されている投与量から再開する。臨床症状を伴わない検査値異常のみを理由に 投与を差し控えないこと。 ・高ビリルビン血症:直接ビリルビン値が上昇している場合、投与を中止する必要がある。 ・ケトアシドーシス:インスリンで血糖値が調節可能になるまで、投与を中止する。 ・肺炎:Grade3-4の場合は投与を中止する。また、アスバラギナーゼの追加投与は禁忌である。 無症状のGrade2肺炎(酵素上昇または画像所見のみ)の場合、症状と徴候が消失し、アミラーゼ/リパーゼ値が正常化してから、投与を再開すべきである。 ・血栓症:症状が解消するまでの投与を中止し、適宜抗血栓療法を実施すること。症状解消後は、低分子ヘパリンまたは抗血栓療法を継続しつつ、投与再開を検討する。 臨床的関連性のない検査値異常のみを理由に投与を中止しないこと。 出血、血栓症、梗塞などの中枢神経イベントが生じた場合、投与を中止する。必要に応じ、FFP、凝固因子製剤、抗凝固療法で治療する。 全症状が消失した(血栓症の場合はCT/MRIによる確認後)場合、全用量での再開を検討する。</p> <p><ボルテゾミブ> ・末梢神経障害:Grade1-2(痛みを伴わない)の場合、用量調節は不要。 Grade1(痛みを伴う)の場合、1mg/m²に減量する。 Grade2(痛みを伴う)またはGrade3の場合、症状が≤Grade1になるまで休業する。症状が改善したら、1mg/m²で再開する。 投与できなかった分はスキップすること。 Grade2またはGrade3で2週間以上持続するものまたは減量後の再発の場合、投与を中止する。 Grade4の場合、投与を中止する。 ・肺毒性:Grade3の肺毒性が生じた場合は、1mg/m²に減量する。 Grade4の肺毒性が生じた場合は、投与を中止する。 ボルテゾミブ減量後にGrade3の肺毒性を再発した場合は、投与を中止する。 ・高ビリルビン血症:軽度の肝機能障害の場合、用量調節は不要。 中等度の肝機能障害(>1.5-3.0mg/dL)の場合、肝毒性が認められるサイクルにおける全投与量を0.7mg/m²とする。 重度の肝機能障害(>3.0mg/dL)の場合、AST/ALT上昇または高ビリルビン血症が改善し、かつボルテゾミブの関連がないとされる場合には、以降のサイクルで1mg/m²まで増量できる。 ・非血液学的および非電解質関連の毒性:ボルテゾミブに関連するGrade3-4の毒性に対しては、1mg/m²に減量する。</p> <p><ダウノルビン> ・心毒性:臨床所見または心エコー検査所見による心筋症(EF<50%)またはGrade3-4の左室収縮機能障害(CTCAE ver4.0)の場合、投与を中止する。 ・骨髄抑制:重篤な感染症またはGrade3-4の粘膜炎かつANC<500μLの場合、投与を継続する。 ・高ビリルビン血症:<1.2mg/dLの場合、投与量調節は不要。 1.2-3.0mg/dLの場合、50%減量して投与する。 3.1-5.0mg/dLの場合、75%減量して投与する。 >5.0mg/dLの場合、投与を中止する。毒性が解消した場合、次に予定されている投与量を投与する。投与スキップ分は投与しない。</p> <p>【随注】 <シタラビン> 年齢 投与量 1-1.99 30mg 2-2.99 50mg ≥3 70mg <メトレキサート> 年齢 投与量 1-1.99 8mg 2-2.99 10mg 3-8.99 12mg ≥9 15mg</p> |
| <p>催吐性リスク</p> | <p>中等度</p> |
| <p>前投薬</p> | <p>-</p> |
| <p>支持療法(その他)</p> | <p>-</p> |
| <p>その他の注意事項</p> | <p>・ボルテゾミブをday1に投与できない場合、最初のボルテゾミブ投与を可能な限り速やかに行い、他の化学療法の開始を遅延させないようにすること。その後のボルテゾミブ投与は72h後および144h後に行う。全投与間隔は少なくとも72h以上あけること。 ※1:最大投与量は2mg ※2:IT投与量は5mLとする。 ※3:CNS3(髄液中において、白血球数≥5/μLおよび/または芽球に対するサイトスピン染色陽性所見、あるいは中枢神経系白血病の臨床徴候)の患者はday15,22も投与実施する ※4:点滴投与も可能。その場合、終口投与量と同量で代用する。</p> <p>◆併用注意薬 ・ヘパリンNa(6時間以内の併用) ・低分子ヘパリン(12時間以内の併用) ・抗血小板薬 クロピドグレル、チクロピジン、プラスグレル など ・抗凝固薬 アピキサバン、ダビガトラン、リバーロキサバン、エドキサバン、ワルファリン など ・併用注意薬の休業期間は、院内の「手術時に注意すべき薬剤の手術前休業期間について」に準拠する。 ※アスピリンは併用可能 ※ヘパリンカルシウム(ヘパリン皮下注)は10000IU/dayまでは併用可能 ※ブルトン型チロシンキナーゼ阻害薬(イブルチニブ、チラルチニブ、アカラブルチニブ、ピルトブルチニブ、ザヌブルチニブ)は原則、併用可能</p> |